

下田海景

－新たな自然の生態観察の"かたち"－

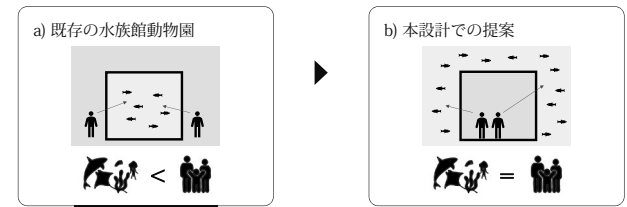
キーワード 景観，生態，生態観察

20FA083 寺崎唯純
指導教員 菅原大輔

1. 設計背景と提案

既存の水族館や動物園では動物を狭い空間で飼育を行うことで、動物に大きなストレスを与えている。このことから動物を自然の海や山に戻し観覧客が入れる空間を海中等に提供することで、動物側はストレス軽減、人間側は自然の生態を観察することで新しい体験や学びができるのではないかと考える。

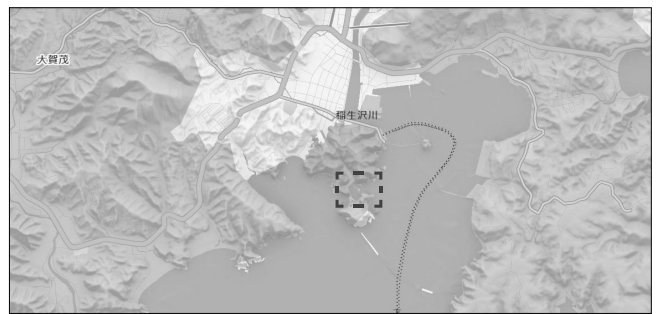
本設計では自然の生態環境を観察できる空間計画を行うために、怪我をした生物や絶滅危惧種の保護（繁殖）などの動物に必要な水族館や動物園の機能は残しつつ、自然の生態を観察できる空間の提供を行うことを目的とする（図Ⅰ）。



図Ⅰ 生態観察の提案

2. 敷地概要

敷地は静岡県下田市駿河湾の入り江とする。下田市は静岡県伊豆半島の南部東に位置し、天城山系の南端から太平洋に至る豊かな自然に恵まれた都市であるため、生態系も豊富である。また、比較的に波や風の影響が少なく、この計画を行う上で良い環境と考えられる入り江周辺を敷地に選定した（図Ⅱ）。



図Ⅱ 静岡県下田市

3. 各空間の形態

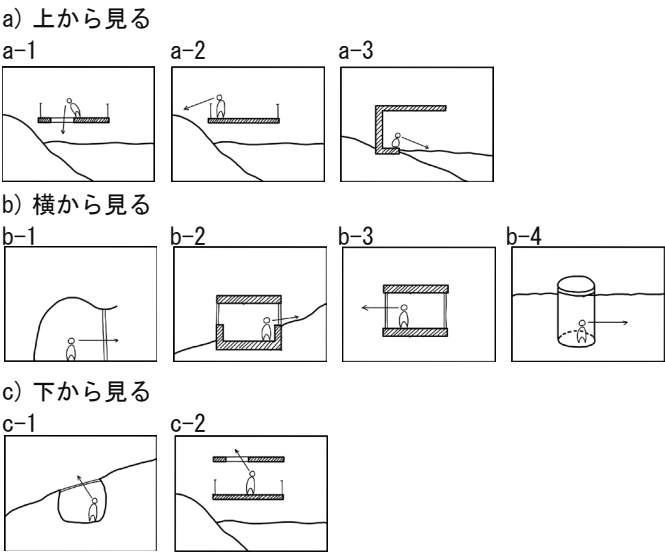
3-1.生態観察に応じた空間形態の決定 その敷地に生息している生物の生態とその観察方法から空間形態を決定した。Asiteでは地中に生息している生態及び地層を観察する空間として

地中に観察空間を設けた。この施設では生物を飼育していないため閉鎖的空間であることを利用し、敷地内に生息している生物の剥製やパネル等の展示する空間も兼ねている空間とした。Esiteでは磯や水辺に生息している生物を観察する空間としているため、半屋外空間とし満潮時には建築物内に海水が少し流れ込み、磯の生物に触れられるような空間とした。Fsiteでは海中・海底に生息している生物を観察する空間として、水深約10m、360°海に囲まれている大空間とした（表Ⅰ、図Ⅲ）。

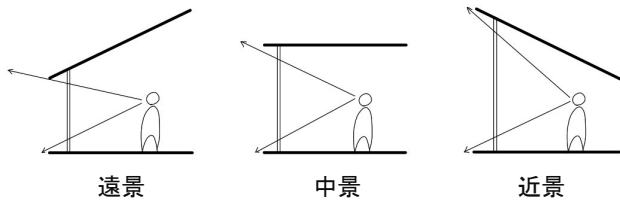
3-2. 景観による屋根形態の決定 風景の範囲と通路の幅から窓のフレーミングの大きさと屋根の勾配を決定する（表Ⅰ、図Ⅳ）。

	観察対象		観察手法	風景範囲
	生息域	生息生物		
A	地中	哺乳類，幼虫等	b-1,c-1	近景
B	地上（地面）	爬虫類，昆虫类等	a-1,b-2	近景 / 中景
C	山	哺乳類，鳥类等	a-1,a-2,c-2	近景 / 遠景
D	水際 / 浅瀬	両生类等	b-3	近景
E	磯	魚類，鳥类等	a-3	近景 / 中景
F	海中 / 海底	魚类等	b-3,b-4,c-1	近景 / 遠景

表Ⅰ 生態観察の対象及び手法



図Ⅲ 生態観察の手法



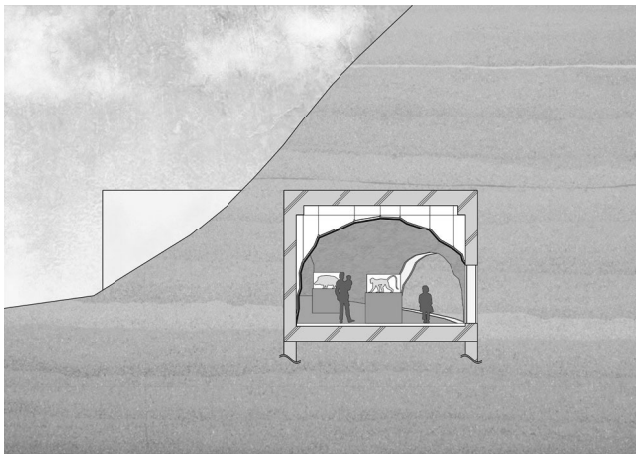
図IV 景観による屋根形態

4. まとめ

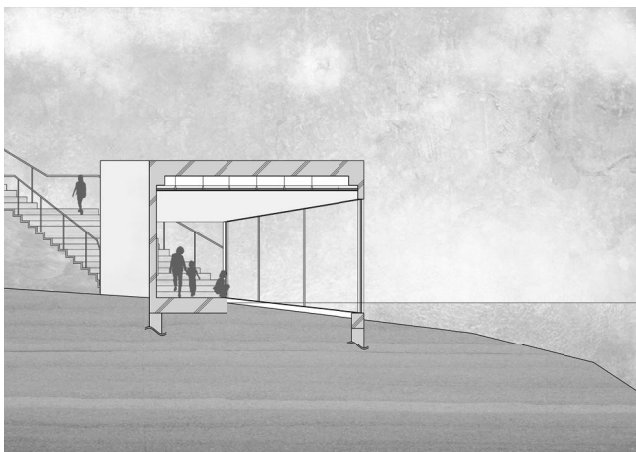
各生態観察空間をランドスケープと屋根でつなぐことにより一体的な建築を目指した。この施設での自然の生態を観察することで、新たな価値観を身につけてもらうだけでなく、海洋ゴミ問題等に向き合うきっかけにしよう。

5. 建築計画

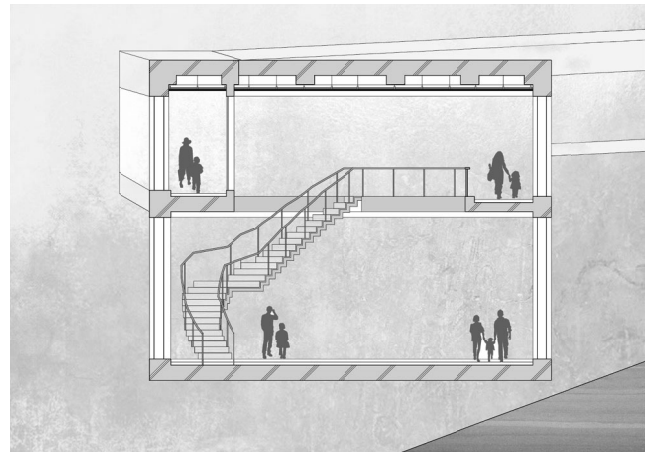
5-1.A-A 断面図 (S=1:250) 地中観察空間



5-2.E-E 断面図 (S=1:250) 磯観察空間



5-3.D-D 断面図 (S=1:250) 移行帯観察空間



5-4.F-F 断面図 (S=1:250) 海底観察空間



6. 全体模型写真

